

News Letter

2021年

7月

中国四国農政局
岡山県拠点

真庭市にCLTの新たなランドマークが誕生 ～GREENable HIRUZEN オープン記念式典～

令和3年7月15日(木)、真庭市が推進するサステナブルの価値発信するコミュニティ・ブランド「GREENable」のコンセプトを具現化し、想いと持続可能な循環型社会を世界に発信する新たなランドマークとして『GREENable HIRUZEN(グリーンナブル ヒルゼン)』が岡山県真庭市蒜山にオープンしました。

「GREENable」とは、「Green」と「Sustainable」を組み合わせた造語で、洗練され誰にでも使いやすい自然共生に関する行為やものを紹介する「コミュニティ・ブランド」です。ものの付加価値を無理やり上げてブランド化するのではなく、人と自然環境にとって持続可能な開発を探求し、地域振興に関する思想や取り組みを表すゆえ、「コミュニティ・ブランド」という名称を用いています。



(CLTパビリオン「風の葉」)



(GREENable HIRUZEN 各種施設)

GREENable HIRUZENのHPはこちら
<https://greenable-hiruzen.co.jp/>

※本紙写真については、GREENable HIRUZEN PR事務局より提供

施設は、「GREENable」の象徴的建築物となるCLTパビリオン「風の葉」、隈研吾氏の建築模型などの資料と現代アートを展示する「蒜山ミュージアム」、国立公園蒜山の観光情報とGREENable HIRUZENを体現するコンテンツを提供する「ビジターセンター」や買い物も楽しめる「ショップ」、現代建築に茅を取り入れた「サイクリングセンター」で構成され、様々な体験をすることができます。

CLTパビリオン「風の葉」等の施設は、真庭市の木材で作られたCLT(直交集成板)を使い、東京都の晴海に建設された隈研吾氏設計の建築物「CLT PARK HARUMI」が、真庭市蒜山高原に移築されたものです。

真庭市産のCLTを活用した建築物が里帰りをするという一連のストーリーは、都市と農山村を結びつける地方創生を象徴するものであり、解体しても再生できる木造建築の特性を活かした移築可能な素材・構造システムを実現することで、持続可能性を体現しています。

式典でのあいさつ

太田真庭市長は、「真庭の地域価値を上げるものと位置づけている」とあいさつし、隈研吾氏は、「日本の木材利用の聖地となる」と期待を述べられました。



